

奈良 世界遺産「古の寺院を訪ねて」②

5/3/2013

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

散策の地 興福寺-東大寺-春日大社-法隆寺-唐招提寺-薬師寺-平城宮跡

旅のキッカケは、興福寺「南円堂」を一般公開(4/12～6/2)するという企画を見たことによるもので、奈良市内を中心とした世界遺産を3日間楽しむことができました。

ならまち商店街には、昔の呉服屋や蔵を利用した店が多くあり、新しい店の中にも、随所にそのような店があり、夕食は150年続く呉服屋を改造した「江戸川」という店で食事をしました。古民家で落ち着いた店でした。また、一心堂様にお邪魔してご主人と話す機会がありました。この店は、筆や硯等の販売の店で、水墨画に興味があり入って話をしていると、ご主人が「ひょっとして私と歳は同じくらいでは?」と聞かれ、「今年60歳」と話すと「同じです」と、その後話は盛り上がり、東京や横浜での「書関係」の店を4店紹介していただきました。本当に楽しいひと時を過ごすことができました。お寺の説明ボランティアや職員、そして街中の人と色々な話が出来るとは旅の醍醐味のひとつです。

【法隆寺】 聖徳宗総本山

日本にある世界遺産の中で、一番早く1993年に文化遺産として登録された法隆寺。聖徳太子ゆかりのお寺で、7世紀頃に創建されたと言われています。

この境内には、日本で最古の木造建築の五重の塔があり、寺院に入る中門前からもよく見ることができました。

写真のように、五重の塔の上には「相輪そうりん」というものがあります。これは、お釈迦様のお骨を収納しているとのこと。今まで何気なしに見ていたものが、知ったことで見方が変わってきます。

下の左側の写真は、聖徳太子が生まれ育った「夢殿」です。今回の参拝では、一般公開されており、中を観ることが出来ましたが、実に古いものが残っているものだと感心させられました。

ちなみに墓は、大阪府太子町の「叡福寺」というお寺に埋葬されているとのこと。



法隆寺 夢殿

相輪



【薬師寺】

古くて重厚な寺のイメージから一転。この 30 年間に殆どの建物を再興し続けており、現在も西塔を解体修理中でした。ここの大講堂に入ると、長野県の中学生の修学旅行生が僧侶の話を熱心に聴いており、たまには笑い、たまには神妙になっていましたが、それもそのはず講和をしている僧侶の話が現代的で大変面白く、ついつい私も聴き入っていました。その僧侶はあとで知りましたが 28 歳でした。また薬師寺では 14 名の僧侶がおられるとのことですが、これも修行と思われま

す。また、薬師寺では、毎日のように写経道場をおこなっているとのことでした。すでにこの 30 年間で「般若心経」の写経数は 700 万巻を達成し、その奉納料だけで 100 億円になりそうです。こうした、奉納等でお寺の修理でやっているとのことでした。うまく考えたものです。お寺にも経営の努力が必要です。ボランティアの人からの話では、奈良時代までのお寺は天皇が仏教布教のために作られたので、檀家がおらず、一般的なお金が集まらないため工夫が必要と話されていました。



熱弁を奮う若き僧侶



苔むす唐招提寺境内

【唐招提寺】

中国からの渡来 5 回目にして成功して日本に来られた鑑真和尚のお寺、唐招提寺。今も、お寺の中に鑑真和尚の立派な墓が祀ってありました。

ここでは、「千手観音菩薩立像」という、まさに 1000 本の手を持つ迫力満点の像がありました。民をあらゆるものから守るための手。実際には 50 本程は朽ちてしまっているようですが、それは見事なものでした。

【平城宮跡】

1300 年前に 75 年間栄えた奈良時代の都跡が再現されて公開されていました。何とその面積は甲子園球場の 45 倍。長い間、田んぼとなっており、遺跡は手つかずの状態であったことが幸いし、建物もなく遺跡は現在も掘り起こされているとのこと。残念ながら現在では敷地内を近鉄奈良線が走っていますが、これは史跡



東西 5km 南北 6km

保存になる 3 年前に開業許可が下りたことで東西に電車が走るようになったとガイドが説明していました。それにしても、よくこんな広大なところが今も残っていることに感心し、また地元の保存の熱意に驚くばかりです。平城宮資料館 HP <http://heijo-kyo.com/history.html>

以上